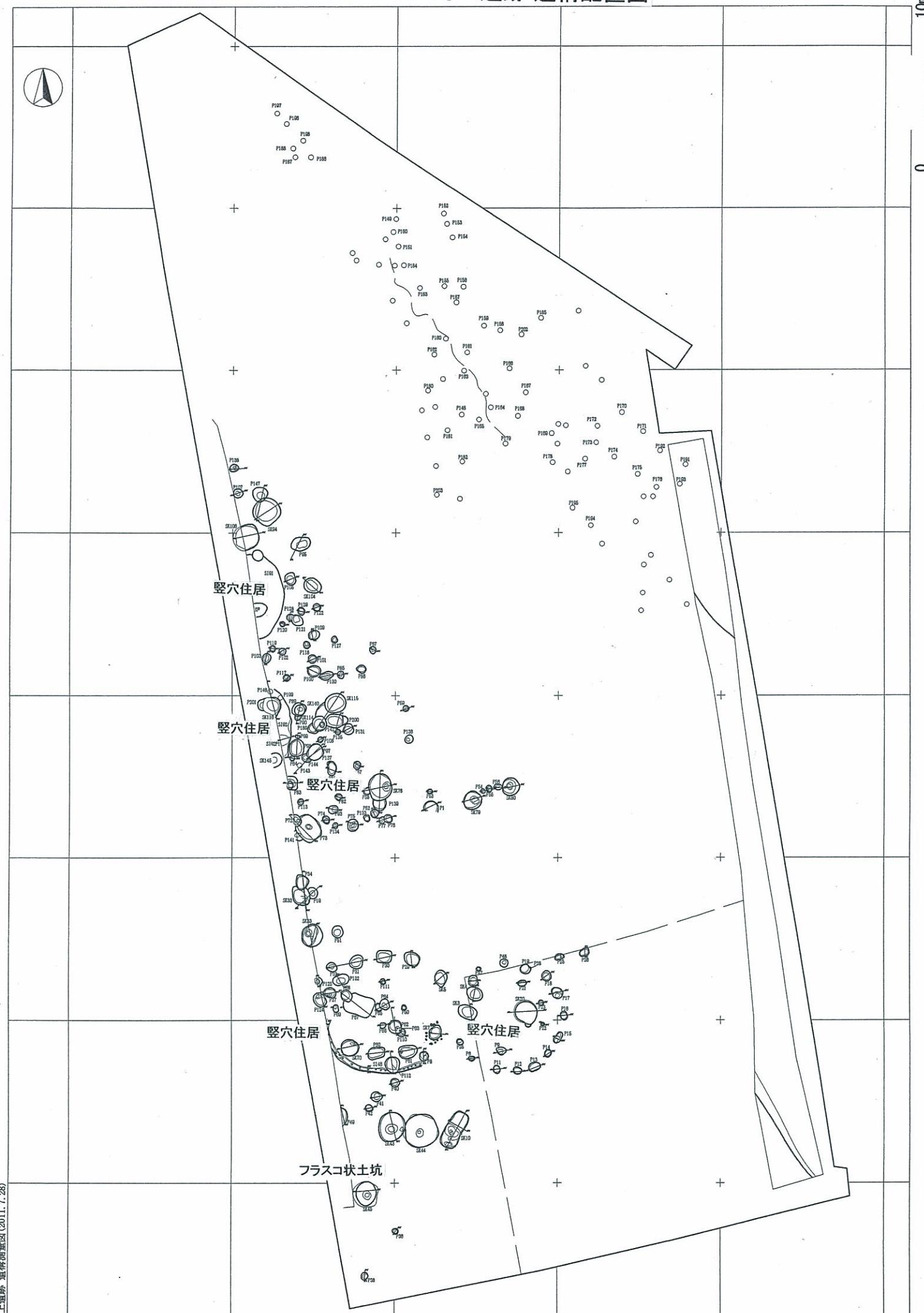


町上遺跡 遺構配置図



5 遺 物

土器は縄文時代中期中頃から後期中頃までのものが出土しました。主体は中期後半と見られます。土製耳飾（みみかざり）もあります。

石器は石鏃（せきぞく）、木の伐採・加工工具の磨製石斧、木の実などを粉にする石皿（いしざら）、木の実を磨り潰す磨石（すりいし）、三脚石器、石棒などが出土しました。



出土遺物（中央に土製耳飾り・三脚石器・石棒・中央上は石皿・左は磨製石斧・右は土器）

6 まとめ

これまであまり遺跡が知られていなかった、水無川扇状地に大きな縄文時代の集落があることが分かりました。

開拓事業によって、当初予定の4,300 m²のうちかなりの部分が削り取られていましたが、約2,000 m²には遺物が残り、そのうち半分には遺構がありました。他の地域でも、過去のほ場整備などで遺跡の削平が見られるところもありますが、すべてが削られていない可能性もあります。今後、試掘調査の機会などで確認する必要があります。

町上遺跡のこれから予定は、たくさんの出土品を水洗（写真）分類し、土器を時代と地域性の系統別に整理して、遺構の情報とともに報告書にまとめます。

右: 土器水洗の様子

